

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人しまね国際センター

1 事業の趣旨・目的

- ・島根県東部地域在住の外国人の日本語学習支援の拡充と、外国人住民・コミュニティの自立を目指す。
- ・同郷人に対してバイリンガルでの日本語指導と日本社会の習慣やマナーなどを指導できる人材を養成する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月8日 13:30 ~ 15:30	財団法人 しまね国際 センター	米勢治子 小林明子 米村 平 野津幸子 宮川澄子 浜崎エバンジリン (以下事務局) 内藤高彰 小寺真由美 目次敦美	・状況等説明(事業、運営委員、島根の状況等) ・講座について検討 ①受講者について ②内容について ③実習について ④開催日・時間等について ⑤広報について ⑥開催場所・託児について ⑦修了証書について ・その他 モデル教室について	・出席者紹介 ・本事業についての応募経過、事業の概要説明 ・島根県内の外国人登録者数・在留資格、日本語教室の状況説明 ・講座の全体像を具体化(受講者・内容・スケジュール・募集等)
11月13日 9:30 ~ 12:00	財団法人 しまね国際 センター	小林明子 米村 平 長森哲子 宮川澄子 浜崎エバンジリン (以下事務局) 小寺真由美 目次敦美	・講座全体の流れ等説明(講座内容、参加者と参加状況)について ・今後の講座内容について検討 ①実習の流れ ②学習者役 ③最終回とその後	・これまでの講座の経過と今後の流れを説明 ・参加者数・国籍・出席状況を説明 ・今後の講座(実習)に向けた具体化 ・講座最終回の流れを具体化(今後の活動に向けて)

1月31日	財団法人 しまね国際 センター	米勢治子 小林明子 米村 平 野津幸子 宮川澄子 浜崎エバンジリン (以下事務局) 内藤高彰 小寺真由美 目次敦美	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の実施状況等報告 (内容・受講者・出席状況・ 事後の感想文提出と懇談 会開催結果)について ・運営委員からの総評 ・事業についての意見交換 (講座の評価・事業の成果・ 今後の課題) 	<ul style="list-style-type: none"> ・10回の講座内容を説 明し、講座の流れをふり かえる。 ・修了証書授与者報告 ・感想文と懇談会の内 容を報告 ・運営委員からの講座 についての総評 ・事業内容・やり方等に ついての評価と見えて きた課題について 意見交換
-------	-----------------------	--	---	---

【写真】



(第1回)



(第2回)

3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 外国人の日本語指導者養成講座(しまね・東部地域)
- (2) 目標 バイリンガルの強みを活用しながら、地域で日本語指導ができる人材育成と、講座開設へのきっかけづくりを目指す。
- (3) 受講者の総数 15 人
(出身・国籍別内訳 フィリピン 10人, 中国 4人, 韓国 1人)
- (4) 開催時間数(回数) 30 時間 (10 回)
- (5) 参加対象者の要件
日本語能力試験 3 級程度(N4以上)の日本語の力があり、受講後は島根に暮らす後輩(同郷人)への日本語指導に意欲があり、パソコンとメールができる外国人住民
- (6) 受講者の募集方法
当センターのホームページ掲載、多言語メールマガジン配信(日本語含む)、募集チラシの配布(県内日本語教室、県東部の国際交流団体、島根大学、外国人グループ、県東部図書館、県東部市町村、開催施設等)
- (7) 会場
島根県民会館
松江市市民活動センター(スティックビル)
しまね国際研修館
- (8) 使用した教材・リソース
各講師作成レジュメ、講師作成パワーポイント、絵カード、国際交流基金日本語教授法シリーズ
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
①10月7日 13:00~16:00	・自己紹介 ・バイリンガル講師が提供できるもの	・東海日本語ネットワーク 副代表 米勢 治子	13名
②10月15日 13:00~16:00	・体験談を聞く ・交流会(意見交換会)	・浜松国際交流協会 堀 永乃 ・フィリピン・ナガイサ コーディネーター 松本義一 牧野 リナ ・島根大学 外国語教育センター 王欣 ・ピノイ・カピット・ビシグ 森桜 ジャネット	12名

③10月22日 13:00~16:00	・日本語のしくみを知る	・元国際交流基金日本語教育指導 助手 月森 育子	11名
④10月29日 13:00~16:00	・コースデザイン (日本語コースを 計画する)①	・島根県立大学 講師 小林 明子	12名
⑤11月12日 13:00~16:00	・コースデザイン (日本語コースを 計画する)②	・島根県立大学 講師 小林 明子 ・サラマプロジェクト 西村 優子	14名
⑥11月19日 13:00~16:00	・実習準備①	・サラマプロジェクト 西村 優子 蟻坂 志保 野津 幸子	11名
⑦11月26日 13:00~16:00	・実習準備②	・サラマプロジェクト 西村 優子 蟻坂 志保 野津 幸子	14名
⑧12月3日 13:00~16:00	・実習① ・ふりかえり	・サラマプロジェクト 西村 優子 蟻坂 志保 長森 哲子	10名
⑨12月10日 13:00~16:00	・実習② ・ふりかえり	・サラマプロジェクト 西村 優子 野津 幸子 長森 哲子 宮川 澄子	13名
⑩12月17日 13:00~16:00	・全体のふりかえり ・今後の活動にむけて	・サラマプロジェクト 西村 優子 長森 哲子 宮川 澄子	14名

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

大変勉強になりました。まずバイリンガル教師として自分は何ができるか考えさせられました。日本語コースの計画から、授業進行メモ作り、教室の運営まで今まで経験のないようなことばかりで戸惑いや分からないことがいっぱいありましたが、皆様と一緒に少しずつ解決ができて、達成感がありました。

最後の授業で、教室を開くことのイメージができました。これから教室を開くために情報を収集し、場所を探し、条件が整えばぜひ開きたいと思います。

みなさんといっしょに勉強してほんとうにたのしかったです。先生たちいろいろおしえてくれてほんとうにありがとうございました。

いろいろな経験とべんきょうになったのでよかったです。足りないけど参加させてもらってありがとうございます。外国人のためにいろいろな支援をしているからすごく力になります。すべ

での先生に感謝します。

実際にバイリンガル教師の活動をされた方々の経験談や、たくさんの専門家の先生の講座を聞かせていただき、バイリンガル教師として日本に来られた外国人に自分は何をしてあげられるのか、とろいろ考えさせれました。日本に来たばかりの外国人が困っていることは、私たちが経験したことでもあります。私たちの経験が皆さんがより早く日本の生活に慣れることの手助けになれば大変嬉しく存じます。

自分が日本語を教えるために何ができるのかすごく不安でした。だけど、初来日したときをふり返ってみるとできなかったことが多々あると思いました。コースの内容について、多くの先生方から学びました。素人の私にとっては大変でした。だけど、これから島根県で生活する外国人のために頑張りたいと思いました。皆が日本人らしく生活できるように支援したいと思っています。

この講座を受講して難しかったところがいっぱいありましたけど楽しかったです。勉強になりました。皆さん達や先生達の一生懸命やってる事をすごく感じました。この活動を続けるためにお互いがんばる事が必要です。教えながら自分も勉強になりました。暖かい心を持って友達もいっぱいできるように言葉だけでなく心をつなぐようになります。

* 達成感の調査結果(回答者 8 人)

- ・ 0~60%・・・0 人
- ・ 70%・・・1 人
- ・ 80%・・・5 人
- ・ 90%・・・0 人
- ・ 100%・・・2 人

②実施主体からの研修内容結果評価

バイリンガルの強みを活かしながら、日本語教室としてのコースの作り方、教案(授業進行メモ)の作り方、教材の使い方、母語と日本語の比較、文化比較等、一連の流れについて研修を行うことができた。自分達の経験・体験を振り返り、その体験に基づきそれを活かして日本語コースとしては、より実生活につながる「生活者として」の視点から、日本語コースを組み立てることができた。また、同じ国籍はもちろん、国籍を越えた参加者同士の繋がりが新たにでき、今後の活動に向けた協力・情報交換等が期待される。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

当センターでは県の支援を受けて、地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)を活用し、次のとおり外国人住民の総合的な生活支援体制を強化してきた。

- ・「しまね国際研修館」を「外国人支援センター」(仮称)として整備し、災害時支援、駆け込み寺的利用、相談・ケースワーク等、総合的な外国人住民のための拠点施設として整備した。
- ・外国人住民の増加に伴う様々な複雑・困難な事例に対応するため、外国人(中国人)スタッフを雇用して母国語によるケースワークを実施し、相談から解決まで一貫した生活支援体制

を整えた。

今後は、母国語でケースワークができるスタッフの配置につとめるとともに、労働基準監督署、警察、法テラスなど関係機関との連携を一層深め、総合的で一貫した生活支援体制を整備していくこととしている。

(11) 事業の成果

(①及び②について)

この事業により、外国人住民の自覚と積極性が芽生えてきたので、この気運を一層高めるため、「外国人による外国人のための日本語教室」の立ち上げを積極的に支援することとしている。また、この日本語教室に参加する外国人指導者の多文化共生に対する意識は高いことから、地域のリーダーとしての育成を図り、自助・自立的な活動を促進することとしている。

そのほか、当センターが実施している災害時のサポーター養成講座にも参加する者が現れるなど、同郷外国人住民を支援したいという相互扶助的な意識の醸成が生まれた。

(12) 今後の課題

今後は、同郷人同士だけでなく、その他の地域の外国人住民や日本人住民とどのような協力・連携関係を築いていくかが重要になってくる。比較的まとまりのある外国人住民のコミュニティーや個々ばらばらで組織化が困難な外国人住民もあり、それぞれの生活実態に即したコミュニティー活性化プログラムやリーダー養成が肝要である。